京都便利堂だより

KYOTO BENRIDO DAYORI

2022 VOL. 1

5/6 初夏号

アートのある暮らしで彩りを

便利堂ものづくりインタビュー

宮脇賣扇庵

京扇子◉創業文政六年　職人の手わざ

【特集】

コロフル

父の日ギフトにも最適◉コロタイプオーダーサイト

”コロフル“の魅力を徹底紹介！

日本文化の美とともに
歩み続けて135年

アートのある暮らし

◉色紙

日々の生活に美術を取り入れることは
暮らしに彩りを与えてくれます。
便利堂では、古典の名作から現代の作品まで
さまざまな美術作品をモチーフとした
アイテムを取り揃えています。
毎号その中から、おすすめをピックアップして
美術商品と暮らす日常風景をご紹介していきます。

色紙を見ると、実家の洋間（ようま）を思い出します。洋間なんて言葉も、今ではもう聞かなくなりましたね。お客さまをお迎えするための玄関脇の応接間のことを、大正時代生まれの祖父は「洋間」と呼んでいました。月に一度、祖父が決まって行う作業が、玄関と洋間に飾った色紙額の入れ替えでした。

◆

額を下ろし、その月に合う絵が描かれた色紙を選び、今まで掛かっていた色紙の埃を払いタトウにしまう。といっても、〝この月はこの作品〟といったお決まりを毎年繰り返すだけなのですが。でも、幼かった当時の私は、祖父のその作業がいつもなぜだか嬉しくて、ずっと眺めていた記憶があります。

◆

子供ながらに色紙の入れ替えは、玄関と部屋の空気をリフレッシュさせる気がして、額や色紙を大切に扱う祖父の姿は、その少々儀式めいた緊張感と特別感とともに、今でも記憶の中にとても好ましい思い出となっています。

◆

折に触れ、季節感のある色紙を買い求めたのか、実家には《鶴図下絵和歌巻》、《瓢鮎図》、《池辺の鶴》など、便利堂製の色紙がたくさんありました。もっとも、これらの色紙が弊社のものだったと知ったのは、入社してから後だったのですが…。幼い頃から見聞きしていた色紙が導いてくれたご縁なのかもしれません。

◆

祖父と色紙の思い出。そんな個人的な記憶に結びつく日常の積み重ねが、〝アートのある暮らし〟のあり方なのかもしれません。丁寧に過ごす時間と季節感を大切にする暮らし。便利堂は、そんな毎日にアートを取り入れるお手伝いをいたします。

色紙《金太郎》
勝川春英　江戸時代
東京国立博物館蔵
￥1,650

玩具に囲まれ、自分ほどの大きさのみみずく人形を担いだ愛らしくも力強い金太郎が、子熊を踏み従えています。左下には、江戸の代表的玩具「とんだりはねたり」。仕掛けた竹ばねが起動するともんどりを打って被りものが飛び、人形が現れるというからくり玩具の一種。

本誌に記載された表示価格は、すべて税込です。

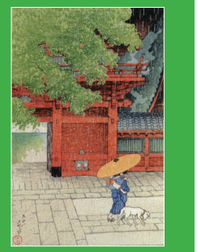
折々の絵はがき

《五月雨ふる山王》川瀬巴水
大正８年 (1919)　東京都江戸東京博物館蔵

梅雨のほんの一歩手前、気温も湿度も高くなるころでしょうか。立ち込める湿気と濡れた土の匂いが頭の中で重なりました。雨はただでさえ眩しいほどの緑をいっそう輝かせ、石畳の色を少しずつ変えていきます。

傘を手に小さい女の子をおぶった女性は、石畳に下駄の音をからから響かせながら子守唄を口ずさんでいます。「晩御飯、なに食べたい？」なんて声も聞こえてきそうです。温かい背中におんぶひも。幼女は安心しきって体をぺたりと預けています。すぐそばを歩く犬はたいそう落ち着いて見えます。長い間かわいがられて暮らしてきたのでしょう。

川瀬巴水は大正から昭和にかけて活躍した版画家です。旅をこよなく愛した彼は、日本各地で庶民の生活が息づく風景を写生し、木版画を制作しました。この作品は「山王さま」と呼ばれ親しまれている東京の日枝神社を描いたもので、木々は桜であると巴水は書いています。すっかり散り切った桜の新緑を背景に、鼻先をかすめるのは初夏の気配。絵はがきは季節も場所も自由に私たちを連れだしてくれます。今日は東京。次はどこへ行きましょうか。



表紙の絵はがき：
コロタイプ絵はがき〈季趣五題 なつはじめ 五月雨ふる山王〉川瀬巴水
￥385

京都便利堂だより

KYOTO BENRIDO DAYORI

2022 VOL. 1
5/6
初夏号

CONTENTS

アートのある暮らし　02
便利堂ものづくりインタビュー
宮脇賣扇庵　04
季節のごあいさつ❶　10
美術はがきソムリエがえらぶ
季節の絵はがき：初夏　11
【特集】コロフル　12
Information　16

2022年
5月10日発行
（奇数月発行）

企画・制作・発行　株式会社便利堂
Director　鈴木　巧
Chief Staff　中嶋直子
Staff　西川　愛 / 増尾麻黄 / 田中　恵

※本誌記載の記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。

宮脇賣扇庵

◉京扇子

手ごろな商品を通じて美術をより身近に親しんでいただきたい――。企画・デザインから制作まで、妥協のない姿勢で取り組んでいる便利堂のものづくりの裏側を、作り手の声でご紹介していきます。
今回は、便利堂の扇子を仕立てていただいている京扇子の老舗「株式会社　宮脇賣扇庵」さんへお邪魔し、なかなか知ることのできない扇子づくりについて同社の髙野恭輔さんにお話を伺ってきました。

聞き手：社長室　前田（写真左）

宮脇賣扇庵
創業文政6年。近世の町屋そのままの姿を残した京都本店は、京の歴史と風格を感じさせます。現在の屋号は、便利堂とも縁の深い日本画家・富岡鉄斎により、名付けられたそう。
www.baisenan.co.jp

――「宮脇賣扇庵」さんの扇子の特徴を教えてください。

一番は「手描き」です。扇子の絵師が手描きで扇面を描いています。

――1枚ずつに職人さんが手描きで絵を描いていらっしゃるんですか？

そうですね。現在は7名ほどの絵師がおります。今では大変珍しくなりましたが、本来、扇子の原型は手描きです。私たちは今もそれを守り、30枚から50枚ほどの少量を手描きで仕上げています。そうすると色の滲み具合などわずかながら個体差が出てまいりますが、個人の方にお求めいただく場合はそれこそが味わいで、世界にひとつのものだと喜んでいただいています。

扇子は87回職人の手を通ると言われています。

《四季花鳥図巻》
酒井抱一
￥3,300
〔女性用サイズ〕

――たしかによく見るとわかります。ひとの手が感じられますね。

私たちはご依頼いただいた扇子を1本からお作りしていますが、それも手描きをしているからこそできることです。わずかなずれも許されないという場合は機械に頼ることもありますが、独特の質感の表現は手描きでしかできないんですよ。

――たった1本の扇子とは贅沢です。そもそも扇子はどのように作られていますか。

扇子は紙づくりから数えると87回職人の手を通ると言われていて、ほとんどが職人による手仕事でできています。

――87回も！

そうなんです。扇子づくりは分業制で、1本の扇子ができあがるまでに何人もの職人が関わっています。実は江戸時代までは扇子の問屋が自社で作っていました。しかし注文数が増えるにつれて手が足りず、外へも注文を出すようになったんですね。しだいに店の職人たちが独立して、製造工程と販売が分かれたという経緯があります。このように工程を分けることによって、数がたくさんできるようになり、その分コストが下がりました。それ以来、扇子づくりの分業制は続いています。

――分業には理由があるんですね。どのような職人さんがいらっしゃいますか？

まず、竹から扇子の骨組みを作るのは「扇骨職人」です。それと並行して扇面を作りますが、扇面は、芯になる紙を中心に合計3枚の紙を貼り合わせてあります。その加工をするのが「扇面師」です。そこへ「上絵師」が刷毛を使い、下地の色引きや絵付けを行います。つぎに「折り師」が絵付けされた扇面を折り、扇骨の中骨が入るよう加工して丈に合わせて上下を裁断します。「附け師」は骨組みと扇面を組み合わせ、仕上げ加工をする職人です。しかしながらこれですべてというわけではなく、ほかにも随所にひとの手と目が配られています。

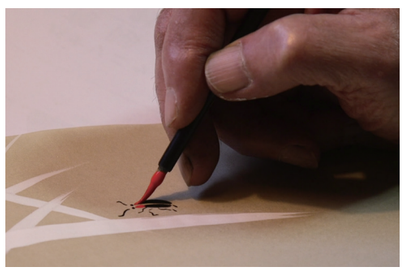
――おどろきました。なんと細かく分かれているんでしょうか。

そうですね。仕上げ部分だけみても13から15の工程があります。実は私はすべての工程をやってみたことがあるんですが、当たり前ですがどれも本当に難しくて…。一番難しかったのはなんといっても折りの作業ですね。

――美しくて、ひとの手とはとても思えないすごみがあります。

この「折り」の作業は扇型の紙を濡らして折り目をつけ、型にはさみ、左から折っていきます。型は古紙を何層にも重ねて外側に柿渋を塗ったものを

上：上絵師による下地の柿渋を塗る作業　下：絵付け作業



使いますが、一子相伝なので私たちもくわしい作り方は知りません。折りだけでなく、扇子職人が使う道具はどれも別注で個々に作られたものばかりなんですよ。

——扇子は3枚の紙が貼り合わせてあるんですね。しなやかで1枚としか思えません。

扇子は「骨組みに紙を貼って作る」と思われている方がいますがまったく違います。まず、3枚貼り合わせた紙をちょうど半分、1.5枚ずつになるところへ刃をいれて割きます。つぎにそれを型にはさんで折っていきます。最後は骨組みと紙を組み合わせますが、紙に骨組みの通り道を作らなくてはなりません。ここで、さきほど刃を入れた部分が生きてきます。蛇腹になった部分に附け師が口をつけ、空気を吹き込むことで通り道を作ります。

上：折り作業　左：折った扇面に息で穴をあける　下：紙が貼り合わされた扇面用紙（上はその一部をはがしたところ）

扇子は「骨組みに紙を貼って作る」
と思われている方がいますがまったく違います。

——えっ？　職人さんが全部の扇子に空気を吹き込まれるんですか？

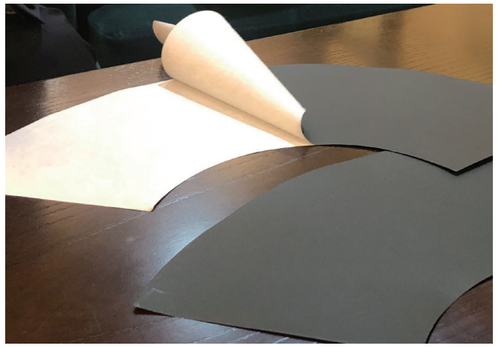
その通りです。職人はていねいさと速さも求められるので、ご夫婦でされているところだと1日300本ほどの扇子に、この「附け」の作業をしていきます。ひとにもよりますが、ひと吹きごとにひとつの穴をあけていくんです。吹きすぎると紙が割れてしまうので息の加減がとても大切です。その後、骨に糊をつけ、骨の1本1本をできた穴に通していくんです。

——ひとの息で竹の通り道をあけるとはびっくりです。

もしよかったら一度やってみますか？　扇子の紙を右手で持って、左から紙に口を近づけて吹いてみてください。

——（ふっふっと息を吹き込んで）だめですね、まったく開きません。

初めてだと全部に穴をあけるのに1時間くらいかかるかもしれません。私もなかなかできませんでした。



——これを1日300本とは……。（再び息を吹き込んで）あ！　通りました！

どの工程もですが、ある種の勘が必要なのでできないひとはずっとできないままなんですよ。さあ今度は骨組みと扇面を組み合わせます。左手で扇面を、右手で骨組みを持って、左側から骨を1本ずつ、開けた穴へ入れていきます。

——これはさらに難しい…。先へ進むと入れたはずの手前から骨が抜けてしまいます。

職人は、骨に糊をつけて、ほとんど一気に合わせていきます。すごいスピードですよ。

「附け」の作業を教えていただいたのは、製造担当主任の米原 敏文さん。入社前、10年に渡り「仕上げ」の仕事に職人として携わられていました。

この技術は機械では
代わりができないように
思います。

——一人前になるにはどのくらいの年月がかかりますか？

10年ほどでしょうか。ただ、残念なことにいずれの職人も数が少なくなっています。扇子職人はどの技術も、家業だったものを代々継ぐことで継承されてきました。技術は引き継ぐひとがいないと残せないですからなんとか続けてもらいたいです。

——この技術は機械では代わりができないように思います。

竹を細くするには機械を使いますが、それを使えるように整えるのはひとの手です。紙を扇型にするため金型で抜きますが、これは機械で行います。しかし100枚の紙を抜こうとすると上の紙と下の紙で大きさが変わってしまうので、そこを見極めて工夫するのはひとなんです。扇子作りはこれだけいるところにひとの手を必要とするのでオートメーション化されなかったのだと思います。

右：折った扇面に骨を射し込む作業作業　下：骨がすべて差し込まれて仕上がった状態

——1本の扇子にこんなにたくさんのひとの手が関わっているとは知りませんでした。

実は昭和に入ってクーラーができたとき、扇子の売上はがくっと減りました。そのとき職人の数も大幅に減ってしまったんですね。この調子ではこの先、扇子そのものがなくなるのではないかと不安に思った職人が多かったようです。しかしながらその後、扇子の「涼をとる」以外の使われ方が見直される時代がやってきます。おしゃれやファッションとしてお選びいただくほか、きちんとしたご挨拶の場でお持ちいただく方がぐんと増えました。また、人生の節目のお祝いごとでは変わらずにお使いいただいているほか、お茶や踊りのお稽古ごとは扇子の世界を屋台骨のように支えてくれています。そうしたことで今もなお、産業として維持することができています。

《風神雷神図屏風》
俵屋宗達
￥3,300

扇子は美しいものしかない世界なんですよ。

——伝統や技術というと扇子には厳しいルールがありそうで気になります。

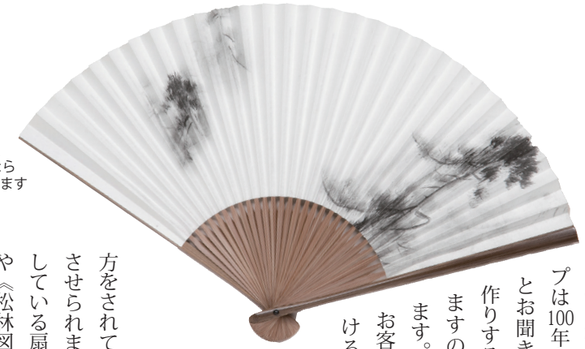
結婚式やお茶席など、場合によっては決まりごとがありますが、それ以外はまったくありません。女性が男性用を選んでも、反対に男性が女性用のかわいらしい柄をお使いになってもそれは使うひとの自由で失礼にはあたらないんです。堅苦しく考えず、気になった柄を手にとって、まずは自由にあおいでみてください。

——選ぶのが楽しみになりました。デザインに決まりはありますか？

扇子は末広がりの形から「縁起物」と言われます。そうしたことから私たちは縁起がよくない絵柄のものは作らないんです。扇子は美しいものしかない世界なんですよ。

——その美しい世界づくりをご一緒できてとてもうれしいです。

ありがとうございます。コロタイプは100年もの間、品質が変わらないとお聞きしています。私たちがお作りする扇子も修理をお受けできますので長い間お使いいただけます。そのふたつが合わさって、お客さまに長くお楽しみいただける製品を作れるのは素晴らしいことだと思います。そういえば初めてコロタイプの印刷物を拝見したとき「これは印刷ではない」と思いました。木版印刷ってご存知ですか？



《松林図屏風》長谷川等伯
〔コロタイプ〕
￥3,300
煙立つ霧の中に浮かび上がる松の姿がコロタイプならではの濃淡で表現されています

《梅に籔文様帷子》
〔女性用サイズ〕
￥3,300

——木に彫る版画のことでしょうか？

そうです。昭和40年代までは扇子は木版印刷が多かったんです。一本一本の線を木に彫り、バレンでこすって完成させますが、この仕上がりがとても美しいんです。インクがのりすぎず、とてもやさしい印象なんですね。つまり木版画は初めから印刷までひとの手が仕上げるものなのですが、コロタイプを見たとき一番にそれを思い出しました。ひとが手で仕上げるみずみずしさがあり、まるで生き物のようだと思いました。

——ありがとうございます。コロタイプも版画のように色を重ねていきます。

そうですよね。便利堂さんの美術印刷を見ていると、印刷の特性を活かしたものづくりをされていると感じます。扇子は、印刷の技法によっては色移りすることがありますが、コロタイプはとても安定していてそうしたことがまったくありません。紙にしっくりとなじんでいます。

——一枚一枚気の遠くなるような手作業を、マニュアルに頼らず、コロタイプ職人が厳しい目と手で仕上げます。便利堂の美術印刷を活かした扇子にはどんな特徴がありますか？

実は扇子のデザインはとても難しいといわれています。このように山と谷がありますから、平面で見ている通りには仕上がらないんです。でも便利堂さんはその作品の魅力を知り抜いているからこその切り取り方をされていて、いつもはっとさせられます。ご一緒にお作りしている扇子は《鳥獣人物戯画》や《松林図》、《風神雷神図》など圧倒的な存在感があり、印刷の美しさには目をみはるものがあります。ですから私たちは竹のかたちよりもその扇面を活かすことを考えてお作りしています。

《〇△□》仙厓
〔コロタイプ〕
￥3,300

《鳥獣人物戯画》
〔コロタイプ〕
￥3,300
折の精度を出すのが難しいと言われる右側に落款があるタイプ

——どの作品も扇子になることでまた違った美しさが引き出されている気がします。

私たちはほとんどすべてにおいて手作業ですが、精度を高めることを追求し続けています。たとえば便利堂さんの扇面は落款もふくめてデザインをされていることがありますよね。落款の位置は左右どちらの場合もありますが、これが右に来ると精度を出すのがぐっと難しくなります。

というのも扇子は左から折り始めるので、そこから遠い位置で精度を出そうとすると非常に難しいのです。しかし、細部に至るまで気を抜かず仕上げられた美術印刷を活かすため、私たちも最大限の努力でお応えしたいと思っています。

《鶴図下絵和歌巻》
書：本阿弥光悦　画：俵屋宗達
〔女性サイズ〕
￥3,300

——ありがとうございます。最後に、初めて扇子を選ぶ方へアドバイスをお願いします。

難しいことを考えず、ぜひお好きな柄を選んでいただきたいですね。好きな絵を決まった場所だけでなく、持ち歩いてどんな場所でも楽しめるのは扇子のなによりの利点です。便利堂さんとお作りした扇子には、普段なかなか見ることのできない国宝や文化財が描かれていて、それが本物の美しさをとどめた美術印刷で仕上げられています。絵を楽しんで、コロタイプと扇子、どちらの技にも直に触れていただきたいです。しかも扇子であればそんな作品を近くでじっくりと楽しんでいただけますし、美術館などで本物と見比べるのもきっと楽しいはずです。「好きな絵を贅沢に持ち歩く」ぜひそんな気持ちで選んでいただきたいですね。

便利堂コロタイプ工房
明治 38 年に開設。以来、1 世紀以上にわたりこの技術を継承し続けている。カラーコロタイプを行なっているのは世界でも便利堂だけ

——本日はお話を聞かせていただきありがとうございました。守るだけではない、新しい試みにも挑戦する「独自の技術」が培われてきた様子をお聞きしてとても共通点を感じました。受け継がれてきた技術のかけがえのなさという点において、便利堂のコロタイプも「宮脇賣扇庵」さんの伝統の技と同じでありたいと思います。これからも美しいものづくりをご一緒させていただければと思います。

京都便利堂の
扇子はこちら

※過去にメルマガで配信した記事を再構成しています。インタビューのバックナンバーはこちら

《鳥獣人物戯画》
〔コロタイプ / 女性用サイズ〕
￥3,300

季節のごあいさつ❶

父の日

6月第3日曜日

「手紙なんてちょっとおおげさかな。」でも、感謝やお礼、ともに喜び合うお祝いの気持ちなど、ときには手書きではがきやメッセージカードにちょっと季節の言葉を添えて送ってみてはいかがでしょうか。折々の季節のごあいさつをご紹介します。

Season Greetings vol.1

父の日の始まり

今年の父の日は6月19日(日)。

母の日、父の日とされるものは、その起源は世界中で様々であり日付も異なります。日本ではいずれもアメリカ発祥の祝日にならっています。その父の日は、1907年に始まった母の日を知ったソノラ・スマート・ドットという女性が、「母をたたえる日があるならば、父をたたえる日があるべきだ」と思い、1909年に牧師教会へ「父親へ感謝する日も作ってほしい」と嘆願したことが始まりです。そして翌年6月19日に、初めて父の日の式典が開催されました。ちなみに、この式典が開催された6月は、ソノマの父の誕生月だったからだそうです。

1950年頃には日本にも父の日が伝わってきましたが、人々の間に広く知られ、実際にお祝いされるようになったのは、「日本ファーザーズ・デイ委員会」が81年に設立されてからと言われます。

黄色のバラ

母の日に贈る花といえば、赤のカーネーションが定番です。実は母の日と同じく父の日のギフトにも、定番の花があるのをご存知でしたか？アメリカではバラが一般的だとされ、日本ではさきの日本ファーザーズ・デイ委員会が開催する「父の日黄色いリボンキャンペーン」の影響で黄色のバラをギフトとして贈ることが定着しました。花言葉は「献身」「さわやか」。お父さんへ感謝の気持ちを伝えるのにぴったりですね。

父の日ギフトにはメッセージを添えて

お父さんへの感謝の気持ちを、自分の言葉でシンプルに伝えましょう。義理のお父さんへも、「お父さん」で構いません。日頃の気遣いへの感謝や、次の帰省の際にしたい事、子供の話なども喜んでいただけそうですね。文末には今後への気遣いとして、体調を気遣う言葉も書き添えましょう。

【カードの文例】

便利堂公式オンラインショップでは、ただいま「父の日キャンペーン」を開催中！父の日限定の〈オリジナルのし〉などのギフトパッケージをご用意してお待ちしています。

父の日キャンペーンページはこちら

季節の絵はがき

美術はがきソムリエがえらぶ

二〇二二年 初夏

1

2

1《黄鳥　長春》葛飾北斎
2《見立伊勢物語（八つ橋）》鈴木春信
3《芥子》小林古径
以上、東京国立博物館
4《花葵》稲葉春生　岡山県立美術館
5《水車もクルクル　傘もクルクル》谷内六郎
6《三千院》山本知克
7《青蓮院の老木》山口華楊
8《二条城緑雨》大野俊明
以上、京都文化博物館
4以外：￥110 / 4：￥102

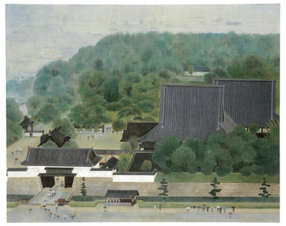
3

4

5

6

7


8

桜吹雪が終わりを迎えてから、夏日和を思わせる天気が続きましたが、初夏といえば梅雨とともにしっとりとした新緑とカキツバタや芥子、葵が美しく咲く季節です。

とりどりの情景が描かれた季節の美術はがきを眺めたり、お便りをしたためたりして、雨で少し鬱屈する時間を心穏やかに過ごすのもおすすめです。

梅雨があければ、夏本番。祇園囃子を待ちながら、しばし五月雨を楽むのもよいものです。

増尾麻黄（ますお・あさぎ）：
美術はがきソムリエとして、手のひらサイズの美術館〈絵はがき〉の楽しみ方をご提案します。手紙を書くときの一番の相棒はカステラ。大好きなカステラ屋さんが閉店してから、次なる相棒を探す日々。店舗で見かけたらぜひお声をかけてください。

【特集】

コロフル

“コロタイプをもっと身近に感じて欲しい”
“コロタイプで仕上げられたプリントを
もっと多くの方のお手元に届けられたら”
そんな思いから、コロタイプを手軽に
ご注文いただけるサイトをつくりました。
標準的な製版（弊社基準）を施し
作業時間や色校正を省くことで低価格、短納期で
コロタイププリントをご提供いたします。
一度やってみたかった…！
そんなご期待にお応えします。

コロタイププリントを
もっと手軽に
お手元へ

COLLO-FULL
Enjoy to Make Collotype!

京都市中京区、御所の南。湿度が一定に保たれたコロタイプ工房。加湿器の蒸気が照明にきらめき、ガタンガタン…ブオーンと重厚感のある音を立てる機械の周りを、職人たちが忙しそうに立ち回ります。彼らが目で追う先に次々と生み出されるプリントは、しっとりと艶感のあるコロタイププリント。

インキの量は十分か…
版の状態は保たれているか…
刷り上がりに不備や荒れはないか…

さまざまなことに注意を払いながら、皆さまのお手元に届けられるプリントが仕上げられていきます。

コロタイププリントを
もっと手軽に
お手元へ

COLLO-FULL
Enjoy to Make Collotype!

〝コロフル〟は、コロタイプを手軽に注文できるオーダーサイトです。
「自分の写真をコロタイプでプリントすると、どんな仕上がりなのだろう？」
「コロタイプでプリントを作ってみたいけど、高いのでは？」
「どうやって注文したらいいか分からない」
といった方々に、おためし感覚でご利用いただけるシステムです。

ただいま「父の日ギフト」とのコラボキャンペーン開催中！ 詳しくはキャンペーンサイトをご確認ください。

商品のラインアップは「名刺サイズ」「ポストカードサイズ」「8×10インチサイズ」の3種類。

名刺や手札サイズの可愛らしいメッセージカードを作るもよし、ポストカードサイズで、オリジナリティ溢れる暑中見舞いや年賀状も作成できます。さらに、お部屋やオフィスに飾る額装作品を作りたい方には、8×10インチサイズの見応えあるコロタイププリントをお勧めします。

用紙は、和紙を含む数種類からお選びいただけます。

初めてのコロタイプ。あなたならどれを選びますか？

【ご注文の流れ】

ご注文は簡単な6ステップ

STEP 1 画像の準備
準備について詳しくはサイトの「入稿ガイド」をご確認ください。

STEP 2 サイトにアクセス

STEP 3 仕様と価格
サイトのメニューから、ご希望の制作物に合わせて、紙の向きや種類、部数などを選択してください。

STEP 4 画像の登録
画像をアップロードし、画像サイズや向き、重ね順を編集してください。

STEP 5 注文フォームへ
完成予想図と注文内容を確認してください。

STEP 6 注文を確定
必要情報を入力の上、料金と送料をご確認ください。決済後、「注文をする」をクリックして終了です。

〈コロフル〉専用サイトはこちら

8x10 インチサイズ

後世にのこしたい家族の肖像にも

見応え十分な 8x10 インチ（20.3 × 25.4cm）のコロタイププリントが制作できます。素敵なフレームに入れたら、プライベートスペースやオフィスの壁面に映える作品になること、間違いありません。保存性の高いコロタイプなら、日常的な展示や後世にのこしたい家族の肖像にもぴったりです。

【価格例】
片面 10 部　44,500 円（税・送料別途）～

ポストカードサイズ

アイディア次第で使い方はいろいろ

ポストカードをはじめ、ミニ額絵、記念品など、アイディア次第で使い方はいろいろ。コロタイプを用いれば、他にない独自な表現力のある素敵なカードが作れます。四季折々のご挨拶や、人生の一場面を描き出す写真をコロタイプで仕上げたら、きっとたくさんの方に届けたくなるでしょう。

【価格例】
片面 100 部　34,000 円（税・送料別途）～

名刺サイズ

個性的な名刺でごあいさつ

セルフポートレートやお気に入りの写真・絵をプリントした、とびきりの名刺をつくりませんか？　鮮明な活字やロゴはもちろん、書や鉛筆で描かれた手書きのサインも美しくプリントできます。名刺、ショップカード、手札サイズのプリントとしてなど、さまざまなシーンでご活用いただけます。

【価格例】
片面 100 部　27,000 円（税・送料別途）～

和紙〈楮〉（こうぞ）

ざっくりとした風合いと自然な白さ

ざっくりとした肌触りと透け感の美しい薄手の楮紙です。インキの吸収が良く、顔料の滑らかでリッチな色のりを支えます。もともと楮の繊維は太くて長いため、ベタ面には細かな繊維の浮きが生じるかもしれません。それも楮ならではの風合いとしてお楽しみいただけるような軽やかさが特徴の和紙です。
※ 8 × 10 サイズのみ対応

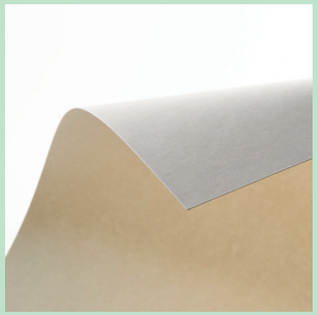
和紙〈三椏鳥の子〉（みつまた）

やわらかい色目と艶

日本では長きにわたって愛されてきた和紙「鳥の子」。元来は栽培の難しい雁皮を主原料に漉かれ「紙の王」と呼ばれましたが、材料難から近縁の三椏や楮を原料にするようになりました。三椏を主原料に生産されたこの和紙は表面に艶があり、インキのなじみも良いため、上質な黒の階調表現が可能になります。

洋紙〈PHO〉

印刷適性にすぐれた写真を刷るための紙



「Photograph」から命名されたこの紙は、富士フィルムが写真印画紙用原紙を応用して開発。表裏ともに平滑に仕上げられており、きめ細やかな肌触りでありながら、しっかりとしたこしがあります。ややクリームかかった色目を使用することで、コントラストを保ちながらも温かみのあるプリントになります。

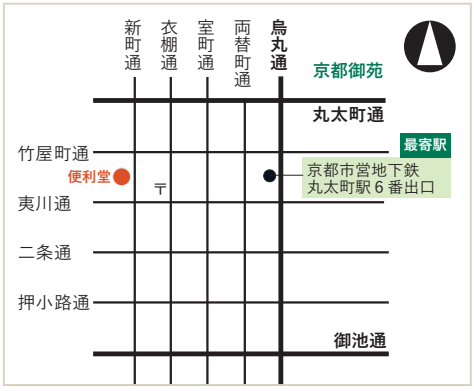
京都便利堂オンラインショップ
www.kyotobenrido.com

京都便利堂本店

営業時間が変更になりました。夜７時まで、土曜も営業。

便利堂本社１Ｆには、美術商品を取り揃えた京都便利堂本店を開設しております。この５月からは営業時間も変更し、よりお買い物していただきやすくなりました。ぜひ京都にお越しの際はお立ち寄りください。

【営業時間】 10：00 ～ 19：00
【 定 休 日 】 日・祝日
【Telephone】 075－231－4351（代表）



【アクセス】
〒 604-0093
京都市中京区新町通竹屋町下ル弁財天町 302 番地

〈公共交通機関でおこしの方〉
・市営地下鉄烏丸線「丸太町」下車 ⑥番出口より徒歩７分
・市バス 「府庁前」下車徒歩５分

〈お車・タクシーでおこしの方〉
・京都駅から 15 分、お客様駐車場あります。
・タクシードライバーに「新町通り夷川（えびすがわ）上がる」とお伝えください。

コロタイプギャラリー

便利堂コロタイプギャラリー春季企画展示
「HARIBAN AWARD Grand Prize Winning Works 2014-2020」

京都便利堂本店がある便利堂本社には、年間を通じてさまざまなコロタイプ作品を展示する〈コロタイプギャラリー〉が併設されています。
ただいまギャラリーでは、弊社が 2014 年から主宰するコロタイプ写真コンペティション《HARIBAN AWARD》の歴代優勝者の作品展を開催中です。

会期：2022 年 4 月 22 日（金）～ 6 月 10 日（金）
開廊：平日 10：00 ～ 17：00
休廊：全日 12：00 ～ 13：00 と土・日・祝日
入場：無料